



学校だより小雀

令和3年4月7日発行
4月号
横浜市立小雀小学校

ホームページ：<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kosuzume/>

ブレイクスルーポイント

校長 今野 敏晴

新入生に54名を迎え、全校児童422名でスタートいたしました。小雀小学校の保護者の皆様、お子様のご入学、ご進学おめでとうございます。また、地域の皆様には、日頃より本校の教育活動に多大なるご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、3月に2年生の国語「楽しかったよ 二年生」の単元のまとめとして行った「ハッピー集会」に呼ばれて参観しました。体育館のステージに一人ひとりが立ち、学年の子どもたちや招待された先生方に今年できるようになったことを堂々と発表していました。子どもたちの発表を聞いていると、できるようになるためには、ほぼ共通のステップがあるように感じました。「最初はできないかとも考えていたものが、がんばって続けているうちにできるようになってうれしかった。」そして、「がんばることができたのは、友達や先生、家族が支えてくれたお陰」というものです。

努力しても、努力しても、成長しない時期、「こんなになんばったのに、ちっとも伸びない」。勉強にせよ、スポーツにせよ、習い事にせよ、結果が出ないことがあります。「努力の量に比例して結果が出る」「10努力したら10成長する」という理想的な考え方は、現実にはあり得ません。「がんばったらその分すぐに結果が出る」ことはほぼありません。そこで、もうひとがんばりして練習を積み重ねたとき、上達は、ある日突然やってきます。成長が加速度的に訪れるポイントをブレイクスルーポイントと呼ぶそうです。

それは、自転車の練習を想像すると察することができます。練習を1回するごとに5cm進めるようにはなりません。練習しても練習しても、転んでしまう日々が続きます。しかし、ある日突然、完璧に乗れるようになります。乗れなかったことがウソのように、スイスイと乗れるようになります。

毎日ちょっとずつ上手になれば、やる気も出ます。でも、実際は、練習を積み重ねてもなかなか結果が出ません。「もう、やめちゃおうかな」ここが成長するかしないかの分かれ目です。では、具体的にどのくらい努力を重ねればいいのか。何事も100回やればうまくなる。これは「100の法則」（千葉大学講師 向山洋一氏）と言われています。人間は、努力を重ねていけば、あるとき突然成長を始めます。そのブレイクスルー（突破口）までの数字の目安が「100」なのです。落語家の修業に「小咄100回」というのがあります。和裁の修行にも「まず100回縫え」という教えがあります。将棋を覚えるのにも「まず100回指してみろ」と言われます。100ほどの努力の積み重ねがあると、そこに質的な変化がみられるようになるというものです。

子ども達は、学年が一つ上にあがり、誰もが新しい気持ちをもって希望に満ちています。がんばろうという気持ちになっています。新しい目標に向かって、スタートを切ることでしょ。ブレイクスルーポイントまで支えていくのは、教職員であり、友達であり、ご家族の皆さんです。子ども達のがんばりを励まし「笑顔と満足の花」を咲かせられるようご協力をお願いいたします。

まだまだ、新型コロナウイルスの感染拡大は油断できない状況にあります。お子様の丁寧な健康観察、うがいや手洗いの励行、マスク着用、早寝早起き、バランスのよい食事などの規則正しい生活を心がけた免疫力の向上などに引き続きご協力いただきますようお願いいたします。